令和７年度　東京都立大崎高等学校定時制課程　学校経営計画
－みんなで支え合い、みんなで伸びようとする学校づくりの推進－

校長　　鶴　田　秀　樹

０　教育目標

変化の激しい社会において、たくましく生きていく力を備えた心豊かな人材の育成

１　目指す学校

小人数ながらも、多様な背景を抱えた生徒が多数在籍している本校定時制課程では、令和６年度は、生徒の心が安んずる学校、いわば、心の落ち着く居場所としての機能を、学校が果たすことを目指して、学校経営に邁進してきた。その取組効果もあり、殆どの生徒は毎日登校をしており、多くの生徒は学校を楽しんでいるかにさえ思われるまでに変わってきた。また、生徒会活動や学校行事に臨む生徒の姿勢も変容を見せ、生徒自身が自ら学校の教育活動に参加していく姿勢が見られるように、望ましい方向の変化が認められる。

しかし、依然として多様な家庭背景や特徴を持つ生徒は在籍しており、ややすると平常の学校での授業に向かう姿勢が途切れがちな者もいる。そして、多くの生徒は学力の基礎基本が不十分である。そこで、昨年度までに積み上げた親和的で家庭的な環境を維持しながらも、全生徒と全教職員で、学びに向かう生徒の姿勢を育成し、合わせて、学力の向上を目指して、日々の学校経営を進めていきたい。

さらに、本校の教育目標は「変化の激しい社会において、たくましく生きていく力」を育成するところにある。「たくましく生きる」とは、精神的肉体的な強さを兼ね備えるとともに、獲得した知識を活用して、人生を切り拓いていく人材を指している。公庫王時代に蓄えた知識や、人間関係の構築力が、自己の人生を支える基盤となり、さらには、社会全体の幸福につながることを自覚させながら、未来に向けた指導を推し進めたい。そのために、以下の諸点を目指す学校像として定める。

（１）　困難や逆境ことなく、高いレジリエンスを備えた人材を育成することができる学校
（２）　自ら学びに向かう心を持ち、知識を活用して人生を切り拓くことができる人材を育成する学校
（３）　社会における自分自身の役割を見出し、自己肯定感を高く持つことができる人材を育成することができる学校
（４）　社会と自己の幸福を希求する意思を持つ人材を育成する学校

これらを「目指す学校」として掲げ、その内容をさらに掘り下げ、「スクール・ミッシ

ョン」並びに「スクール・ポリシー」として定め、広く一般に広報する。

① スクール・ミッション

自己肯定感を育成し、強い意志を持って、社会を切り拓くことができる人材を育成するために、すべての教育活動を通じて、以下の能力を育成する。

ア　自己実現力

イ　思考力・探究力

ウ　自己抑制力

エ　キャリア形成力

オ　協働力

② スクール・ポリシー

〇グラデュエーション・ポリシー

人生における困難や課題を解決していこうとする意欲や知恵を養うとととともに、知的興味や関心を一層育成し、自ら探究する精神を育て、社会における自己の役割を実現しようとする人材の育成を目指す。

〇カリキュラム・ポリシー

日常の学びを通じて、基礎・基本の学力を定着させ、実社会における生活力を向上させる。また、学校行事をはじめ特別活動を通じて、生徒相互で支え合う望ましい人間関係を育むことを目指す。

〇アドミッション・ポリシー

本校での学校生活における目的意識を明確にもち、4 年間継続して通学し、勉学と特別活動に意欲的に取り組み、人生を意欲的に切り拓こうと努める生徒を期待する。

2　中期的目標と方策

【目標】生徒の学びの成果を実感させることを通じて、自己成就感を高め、意欲的に社会に参画する態度を育成する。そのために、以下の方策により目標達成に向けて尽力する。

【方策】

ア　学校経営

個々の生徒の生活状況を丹念に把握し、生徒理解に努めるとともに、個々の生徒にとって学校が心の安定に繋がる場所となることを期して、教育課程と学習環境を整備する。

イ　学習指導

基礎・基本の定着を図り、自ら学ぼうとする学習に向かうための効果的な在り方について研究実践するとともに、探究的な学びの姿勢を涵養する。

ウ　生活指導

自律的な生活習慣の確立を目指した、生活指導や特別活動を実践する。

エ　進路指導

組織力をより向上し、教職員全員で生徒理解に努め、個々の進路実現や自己有用感の醸成を図る。

オ　学校施設

全日制課程や経営企画室と連携し、施設・校舎改築委員会や安全労働委員会、防災管理・防災対策委員会などの機能を活用し、老朽化や破損箇所の洗い出しを行うとともに、空調設備の工事について、全校を上げて取り組む。

３　今年度の取組目標と方策

学校が組織体として健全に機能するために、全教職員の明確な到達目標の認識に基づく学校経営を推進する。そのために、以下の諸点を今年度の取組目標と方策として掲げる。

（１）　学校経営

【目標】

個々の生徒の精神的成長を積極的に支援し、家族的安心感のある雰囲気の中で、生徒の心の安定を図ることができる学校づくりを目指す。

ア　自律できる生徒の育成を全教職員が一体となって行う。そのために、すべての教職員で、個々の生徒の自律支援に向けて職務を遂行する。

イ　基礎基本の定着を図り、学習意欲を喚起する授業の創造を追求する。

ウ　進路指導に関するノウハウや情報を意欲的に吸収し、時機に適った進路指導の実践を行う。

エ　学校への帰属意識を高める特別活動の工夫を行う。

オ　自律支援、健康生活指導、食育指導など、生活環境を取り巻く指導を三位一体となって行い、自己愛護の精神を育む。

（２）　学習指導

【目標】

基礎基本の定着が十分でない生徒や、発達障害を有する生徒も在籍している現状に鑑み、学問への目覚めを促し、自ら学びに向かう姿勢を喚起する授業の創造を行い、実践する。

ア　教育ダッシュボード等を利活用した授業方法や、評価の在り方について、実践研究する。

イ　「学びに向かう姿勢を喚起」するために、研究授業を実施するとともに、授業力向上研修を年２回開催する。

ウ　ホームルーム活動の効果的な在り方について、学年担任を中心として研修を行う。

エ　総合的な探究の時間については、生徒のキャリア形成にふさわしい内容となるよう工

夫する。

オ　学びへのより深い意欲を持つ生徒に対して、上級学校への進学も視野に入れた個別指導を講ずる。

カ　学校図書館の機能を利活用した授業実践や探究活動を積極的に行う。

（3）　生活指導

【目標】

自己肯定感を育み、社会から有用とされていることを実感できる生活指導を実践する。また、卒業後に社会生活を営むことが可能となるよう、生徒の中に自治意識を高め、市民教育を通じて、社会への参画意識を醸成する。

ア　毎日通学することの意義を指導し、継続して安定した学校生活が、自らの自律心を育むことができることを実感させる。

イ　小人数の集団である特徴を活かし、一人一人をかけがえのない人であることを、生徒も教員も認識し合い、心を通わせる温かみある生徒指導を実践する。

ウ　生徒のキャリア形成に資するために、学校行事を工夫し、生徒自身に達成感や成就感を醸成することができるよう工夫する。

エ　教育相談体制を充実させ、支援を必要とする生徒を全力で支える。また、個々の生徒情報を、全教職員で共有する。

オ　心身ともに健全な生徒の育成を目指し、カウンセリングマインドを重んじる。また、望ましい生活習慣や心身ともに健康な生活の確立を目指し、保健指導や食育指導を充実させる。

（4）　進路指導

【目標】

既に定職を有する生徒や、今後具体的な進路開発を進めていく生徒など、卒業後の見通しは、多岐に渡る。また、進学を希望する生徒も増加傾向にある。そのため、個々の生徒には、それぞれの希望に応えられる進路情報を提供できるように準備するとともに、全生徒に共通するキャリア意識を育む指導を行う。

ア　職業選択は、中長期的に社会との関わり方により行われるものであることを生徒に理解させられるよう、望ましいキャリア意識を定着させる。

イ　具体的な進路選択のための知識を向上させるために、外部機関との連携を一層深め、定期的な進路学習を行う。

ウ　全日制課程とも連携し、大学や専門学校などの上級学校の教育内容等に関する新鮮な情報を意欲的に入手し、生徒の進路実現の支援を行う。

エ　生徒が活躍する今後の社会の課題を見据えた、キャリア教育を実践し、主権者教育や消費者教育を教科や特別活動を通じて、具体的に行う。

オ　個別最適な進路指導を実践するために、具体的な出口指導については、生徒の進路希望を尊重しつつも、エビデンスに基づいた指導を行う。

（5）　特別活動

【目標】

共に学び、共に支え合う望ましい人間関係を育成するために、個々の多様性を尊重し、互いに信頼し合う人間関係をつくるために特別活動を通じてコミュニケーション能力を高める。

ア　「生活の基盤は学校にあり、学校での基盤はホームルームにある」ということを感得させ、意義を見出させるために日常のホームルーム活動を計画的に行う。効果的なホームルーム活動を実践するための校内研修を定期的に開催する。

イ　在校するすべての生徒が学校を支えているという望ましい参画意欲を育むために、学校行事への生徒の積極的な参加を指導する。そのために、行事検討委員会の機能を強化する。

ウ　生徒が自ら企画・立案する学校行事を支援する。また、成就感の高い学校行事の在り方の工夫改善に努める。

エ　社会の構成員としての自覚を促し、望ましい規範意識を育成する。

オ　学校行事については、生徒が意欲的に取り組み、実践後に深い成就感が得られるように工夫するとともに、学年を越えた学び合いと支え合いの意識を喚起する。

（6）　経営企画室

【目標】

真に学校経営に参画する経営企画室を目指し、教育目標の達成や学校経営計画の実現に向けた具体的な取組や提言を行う。

ア　施設校舎改築委員会のメンバーとして、学校諸施設の改善に意欲的に取組む。

イ　自立経営予算については、費用対効果を念頭に置きつつ、メリハリのある予算投下を実現していく。

ウ　夜間定時制課程の併設校として、とりわけ夜間の学校活動における施設・設備上の瑕疵が生じていないかどうかを逐次点検し、場合に応じて改善策を講ずる。

エ　定時制課程に学ぶ生徒への窓口サービスを維持するとともに、効率的で正確な事務執行の在り方を検討する。

（7）その他

ア　近未来の一層のグローバル化を見通した人材の育成の在り方について、探究活動、日常の授業、進路指導が連携して取り組む。

イ　給食や給食施設を活用した、日常の食育改善に活かせる食育指導を行う。また、栄養士と教員の連携により、効果的な食育指導を推進する。

ウ　ＢＣＰ（事業継続計画）を改めて確認し、緊急事態発生時にも安定した学校運営に努められるように努める。

エ　感染症予防や健康指導について、生徒自身の意識を喚起する。

オ　職員のライフ・ワーク・バランスをさらに継続するため、毎月１回全日制定時制ともに、「残業１時間限定デー」を設定する。また、職員の夏季休暇の完全消化を目指すとともに、年間取得の促進を行う。

４　重点目標の設定と方策（数値目標）

○生徒の学校満足度（本校に入学してよかったと思える生徒）		９５％以上	（学校経営）
○授業改善	やる気の出る授業創造を目指した改善	全教科	（学習指導）
○授業観察		年２回以上	（学習指導）
○授業改善	授業満足度の向上	満足度９０％以上	（学習指導）
○生活指導	教育相談体制の充実	グループエンカウンターの実施年２回 ＳＣによる面接２回以上	（生活指導）
○生活指導	中退率の低下	２名以下	（生活指導）
○特別活動	学校行事の満足度	８５％以上	（生活指導）
○進路実績	卒業時の進路決定率	卒業生の９０％以上	（進路指導）
○進路指導	社会的自立的支援プログラム	年３回	（進路指導）
○ライフ・ワーク・バランス	残業１時間以内設定日	年間１２回	（学校経営）